

令和2年度 並木地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

海を埋め立ててできた平地に広がる巨大な団地群と、丘陵地の戸建ての住宅からなる地域です。道路や公園などが整えられ、高齢化率は区内でも高めですが、要介護認定率は低く、「元気な高齢者が多い街」といわれています。一方で、ひとり暮らしや高齢夫婦世帯等、世帯が縮小し些細なことで外出できなくなり、孤立するリスクも高くなっています。また、子育てに関する相談も増えてきています。

いつまでも健康で住みなれた地域で生活するために、5年後も「元気な高齢者が多い街」を目標に、元気なうちから出来る対策について、新型コロナウイルスの影響で外出の機会が減ったことも踏まえ、孤立させない見守りの仕組みづくりを地域の方とすすめていきます。

今年度の重点的な取組

新規
継続

—具体的な取組内容—

■ ボランティアグループ「お助け隊なみき」をはじめ、地域の活動が新型コロナウイルスでほとんど停止してしまっただけでなく、活動の活性化を高めるための団体支援を行います。また、コーディネートのスキルアップも継続して取り組むとともに、企業との連携についても一年かけて検討していきます。

■ 「介護予防」に至らない世代や子育て中の母親に向けて健康意識を高め、運動習慣が身につくように促します。また、「高齢・独居・閉じこもり」を掘り起こし、気軽に参加の声かけが出来るように関係づくりをすすめます。既存の活動を紹介することで活動の後方支援を行います。

■ 北部在宅医療連絡会を4ヶアプラザの主任ケアマネジャーと共同開催し、在宅医療における課題解決の為、多職種で検討する機会を作ります。

■ 権利擁護に特化した講座を複数回開催することで、潜在的な課題とニーズの掘り起こしを図ります。(認知症、遺言・相続、成年後見、消費者被害等についての講座)

■ 区、区内ケアプラザ、関係機関と協働で作成したエンディングノートについて、継続して普及をすすめます。

■ フードバンクかながわと協働し、新型コロナウイルスの影響により生活困窮してしまった方を中心に食を切り口とした支援を行う。また、その効果を見極め具体的な支援についても地域・関係機関と連携し分析をする。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

新型コロナウイルスの影響が強く、どうしても対面に適した取り組みは実施が困難でした。しかしながら「お助け隊なみき」の活動再開支援や、夏頃からの相談増、それらに対応したアウトリーチ、フードバンクの実施など、団体支援・個別支援面から機能を発揮し、コロナ禍においても一定の充実を果たせてきた手ごたえは感じています。職種間で連携した講座や、権利擁護等一般向け講座についても、コロナ禍の状況を鑑みつつも開催かつ好評だったことは前向きに捉えたく、子育てサロンやナイトピラティスなど通常の活動も回復基調にあり、新たな「孤立させない地域づくり」への動きを模索できたと思います。

区からのコメント

コロナ禍で地域と接する機会が減り、事業の実施も難しい状況下でしたが、感染症予防に留意しながら、個別相談や各種事業、地域資源と連携した取組を行っていただきました。特に、地域の活動団体は活動ができない状況が続いていましたが、活動再開に向けて丁寧な支援をしていただいています。

また、地域ケアプラザを利用する機会が少ない、子育て世代などの若い年代層に向けた取組も始められています。

社会的に地域とのつながりが希薄となっており、SOSを出せずに困りごとを抱えている方も増えています。「孤立させない地域づくり」に向けて、地域のネットワーク構築に引き続き取り組んでいただくようお願いします。